

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	事業群主管所属	文化観光国際部世界遺産課
施策名	(1) 2つの世界遺産等を活用した観光地づくりと誘客拡大	課(室)長名	馬場 秀喜
事業群名	① 価値を正確に伝え守る仕組みづくりの推進	事業群関係課(室)	観光振興課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)				
<p>世界遺産登録に伴い増加が見込まれる来訪者に対し、その価値の理解増進対策や文化財としての保全対策などを講じる必要があります。特に祈りの場である教会堂へは十分な配慮を行いながら、秩序ある公開・広報の実現に向けて取り組みます。</p> <p>一方、産業革命遺産については、8県11市に資産が分布しており、生産活動を行う民間企業の資産が含まれていることから、国や関係県市、資産所有企業等と連携した取組を進めます。</p>						<p>i) 世界遺産としての価値を正確に伝え守る仕組みづくりの推進</p> <p>① 信仰の場を守るため、教会守の配置や教会堂見学の事前連絡による受入の調整を行う。</p> <p>② 価値を深め、伝え、将来に向けて守っていくため、調査研究や情報発信、意識醸成のための機能を整備する。</p> <p>③ 構成資産以外のキリスト教関連資産について、関連する文化財等を含む「長崎と天草地方のキリスト教関連歴史文化遺産群」として、構成資産と一体的に保全と活用を促進し、広域的な魅力を発信する。</p>				
事業群	来訪者理解度	指標	基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
		目標値①	/	70%	75%	80%	85%	90%	90% (R2)	
		実績値②	—	—	—	95%	94%		進捗状況	
		②/① (達成率)	/	—	—	118%	110%		順調	

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和元年度事業の成果等	中核事業	
				H30実績	うち一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H30目標	H30実績			達成率
1		世界遺産情報発信事業費	H19-	44,323	30,629	15,944	県民	ホームページの多言語対応に取り組むとともに、登録1周年を記念してフランス・パリで世界遺産を含む長崎県の魅力をPRしたほか、登録までの道のり等を記録した記念誌を作成し、配布した。 長崎と天草地方のキリスト教関連歴史文化遺産群ウェブサイト「おらしょ」の定期更新、登録資産を記載したマップを含むリーフレットを作成した。	活動指標	世界遺産としての価値を伝えるためのパネル展や講座等のイベントへの参加者数(人)	6,000	167,025	2783%	●事業の成果 ・海外でのPRや国内外に向けての情報発信など、様々な機会を捉えて構成資産の価値を発信することで、価値の理解につながったとともに、保護に対する意識の醸成につながった。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・効果的な情報発信や、地域での意識醸成を行ったことで、理解度の向上に寄与した。	○
				52,171	31,125	15,908					15,000	79,691	531%		
				34,964	18,549	15,950	根拠法令	ユネスコ世界遺産条約	成果指標	イベント等参加者へのアンケートによる、世界遺産としての価値の理解度(%)	90	96	106%		
		世界遺産課								90		105%			
2	取組項目 i	世界遺産でつなぐ・つながるプロジェクト事業費	R元-3	/	/	/	市町、長崎大学、長崎県立大学、学校、地元住民・団体	地域をつなぐ取組として、保護母体の活動の継続や活発化のための課題解決など3市町の取組を支援するほか、構成資産同士の交流を促進する情報交流会を開催した。 世代をつなぐ取組として、長崎大学や長崎県立大学と連携した世界遺産集落におけるフィールドワークの実施や、長崎大学教育学部附属小・同中学校におけるモデル授業を参考に、県内小・中・高校でのふるさと教育の展開を図った。	活動指標	構成資産の保護に向けた課題検証を実施する集落への支援数(地区)	3	3	100%	●事業の成果 ・保護母体の育成・活動支援として、平戸市(春日集落)、五島市(久賀島の集落)、新上五島町(頭ヶ島の集落)を対象に支援する中で、活動の継続や活発化に向けて検討し、課題解決に向けて、継続性のある取組や今後につながる取組を進めることができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・大学連携によるフィールドワークやふるさと教育の促進、構成資産間の交流促進を図る情報交流会の開催など世代間や地域間の交流を促進することにより、理解度の向上に寄与した。	
				6,651	4,914	12,726					3				
				5,909	3,669	12,760	根拠法令	ユネスコ世界遺産条約	成果指標	検証された課題のうち解決に向けて取り組んだ延べ件数(件)	3	4	133%		
		世界遺産課								6					

3	取組項目1	世界遺産受入体制整備促進事業費	(R元 終了) H26-R元	6,346	6,346	4,783	NPO法人 長崎巡礼 センター	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録を受け、ツアー客の受入(ガイド手配)やガイド養成等の受入体制の向上を図る取組を支援した。	活動 指標	ガイド養成講座開催 数(回)	4	5	125%	●事業の成果 ・ツアー受入をはじめとして様々な地域 でガイドを行うとともに、新たなガイド人 材の育成やガイドのスキルアップ講座 を実施し、受入体制整備を進めることが できた。			
				9,121	7,575	3,977				4	8	200%					
				根拠法令						—			H30:ガイドを手配し た観光客数(人)		7,000	11,243	160%
				観光振興課						—			R元:ガイド活用率 (%)		5.0	4.8	96%
4	取組項目1	世界遺産感動体験促進事業費	(R2 新規) R2-4	/			民間団体 等	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を訪れる来訪者の旅行形態(個人・団体)に応じた受入体制を充実し、世界遺産の価値(物語)の共感による満足度の向上・再来訪を促進する。	活動 指標	ガイドスキルアップ講 座開催回数(回)	/			—			
				/						4	/						
				/						/			ガイド活用率(%)		/		
				/						/			5.5		/		
観光振興課			/			/			/								

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	<p>世界遺産としての価値を伝える仕組みづくり</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>認知度向上のため、パネル展示やパンフレット配布を行っているが、構成資産は一見して価値が分かりにくい。価値について、一定の理解は得られているものの、将来に向けての保存に結びつく活動につなげる意識醸成が十分に図られていない。</p> <p>世界遺産登録から2年が経過し、各構成資産への来訪者数が一定の落ち着きを見せるなど、世界遺産の登録効果をいかにして持続させていくかが課題である。</p> <p>構成資産の集落では人口減少や高齢化が顕著に進んでおり、将来的に構成資産の維持・管理が困難になるおそれがある。</p> <p>秩序ある公開のための仕組みの一つとして、教会堂見学の事前連絡をお願いしているが、事前連絡なしの来訪者が依然として存在する。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>ターゲットや伝える内容に応じて効果的に情報発信を行うよう、適宜設定を見直し、価値の伝達に努める。また、各種ツール及び実施機関により価値説明の表現に違いが出ないよう、統一的な運用にも努める。</p> <p>市町や大学等、地域の方と一体となって取組みを行うことで、課題の共有や保護意識を醸成し、次世代への継承につなげていく。</p> <p>調査研究成果を活かした今までと異なった視点からの魅力の発信や構成資産以外のキリスト教関連遺産を含めた広域的な魅力づくりにつなげ、情報の発信を行っていく。</p> <p>地域と世代をつなぐ取組を継続し、モデル的な取組を作り出すとともに、関係機関とも緊密に連携することで、地域の活性化につなげていく。</p> <p>構成資産の適切な保存や次世代への継承に向けて、過疎化に直面する地域の維持・活性化を図っていくとともに、地域住民、県民、来訪者など、地域活性化に関わる人を増やし、世界遺産をみんなで守っていく機運醸成を高める必要がある。</p> <p>教会見学時の事前連絡について、引き続き周知徹底を呼びかけていく。また、ホームページの多言語化の充実を図る。</p>
---	--	--

### 4. 令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業 番号	取組 項目	事務事業名 所管課(室)名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目1	世界遺産情報発信事業費 世界遺産課	長崎と天草地方のキリスト教関連歴史文化遺産群ウェブサイト「おらしょ」や「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のパンフレットの多言語の拡充。	②	世界遺産登録効果が一過性のものとならないよう、世界遺産の価値をしっかりと伝え、構成資産保護の意識醸成を図るとともに、秩序ある公開と適切な受入の仕組みを継続しながら活用していく。構成資産の魅力づくりにつながるよう、ホームページやリーフレットの多言語化や既存コンテンツの発信機会の拡充を行っていく。	改善

2	取組項目 i	世界遺産でつなぐ・つながるプロジェクト事業費	—	② 地域と世代をつなぐ取組として、大学と連携したフィールドワークの実施やふるさと教育の促進、構成資産の保護を担う集落等が活性化するための活動支援など継続して実施していく中で、より効果的な取組が行えるように、関係市町及び大学等との情報交換や意見交換を十分に行う。 本事業を通じてモデル的な取組を作り出し、市町の事業化や他市町への展開を目指していくとともに、世代間や地域間の交流を促進しながら、構成資産の保護や次世代への継承、地域の活性化につなげていく。	改善
		世界遺産課			
4	i	世界遺産感動体験促進事業費	来訪者の旅行形態(個人・団体)に応じた受入体制を充実するため、定点ガイドの配置実証事業を行うことで、個人客に対しても世界遺産のストーリーを訴求し、満足度の向上、再来訪の促進を図る。	② 令和2年度から個人向け施策として定点ガイドの配置実証事業を行う。 今回の実証事業の取組状況も踏まえ、令和3年度の事業構築に取り組む。	改善
		観光振興課			

注:「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点